



# 地層処分レポート

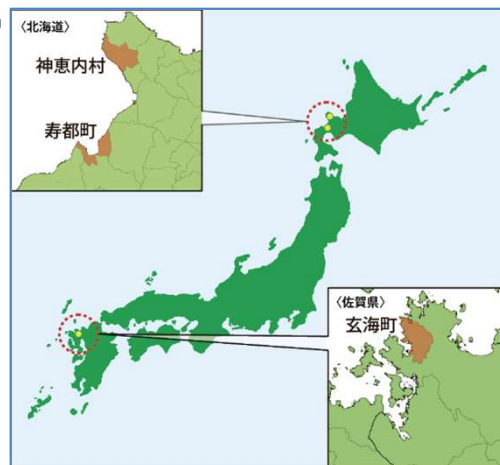
高レベル放射性廃棄物等の  
地層処分手業について  
ご紹介します。

**NUMO**  
原子力発電環境整備機構  
2025年 秋特別号

NUMOは、北海道の<sup>すつちよう</sup>寿都町と<sup>かもえないむら</sup>神恵内村、<sup>げんかいちょう</sup>佐賀県玄海町において文献調査を実施しています。

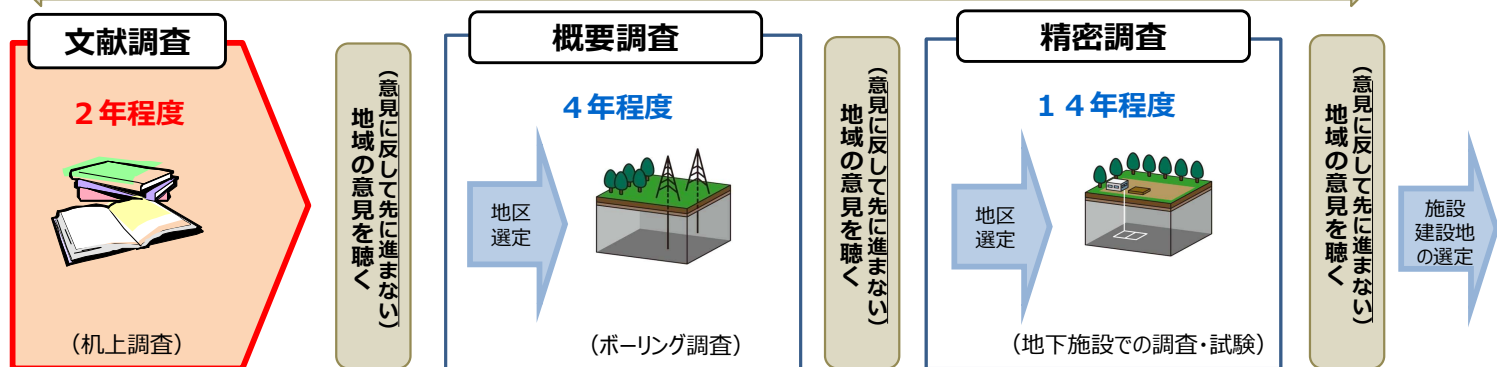
文献調査は、地層処分手業に関心を示していただいた地域に、事業を深く知っていただくためのものであり、またさらなる調査(概要調査)を実施するかどうかを検討していただくための材料を集める、事前調査的な位置付けです。

本号では、北海道札幌市内での「シンポジウム」の開催状況、玄海町の「対話を行う場」および理解活動の状況等をお伝えいたします。



## 処分地の選定プロセス

20年程度の調査期間中、放射性廃棄物は一切持ち込まない



電源立地交付金  
(金額は地点毎)

※NUMOによる調査の結果、処分場の建設に適さないことが明らかになれば、次の調査に進むことはありません。

文献調査段階  
期間最大20億円  
(単年度最大10億円)

概要調査段階  
期間最大70億円  
(単年度最大20億円)

精密調査段階以降は  
今後国において制度化の予定

地域には、地域共生事業の成果をはじめとして、雇用や税収等、長期にわたるさまざまな波及効果が見込まれます。

## 札幌市内で「シンポジウム」を開催（9月23日）

NUMOは、「日本における地層処分技術とはどの程度成熟しているのか」等をテーマに、シンポジウムを開催しました。当日は国内外の3名の専門家を招き、地層処分の国際動向や、日本の技術の進展・現状についてご講演いただき、107名の方がご参加されました。また、**多様な専門家による意見交換が行われ、参加者の疑問や関心事については、NUMOや専門家に直接質問できる機会が設けられ、活発な議論が交わされました。**

### ● 地層処分技術を考えるシンポジウム 2025

- ステファン・マイヤー氏（国際原子力機関（IAEA））
- 徳永 朋祥氏（東京大学大学院 教授）
- 千木良 雅弘氏（京都大学 名誉教授）
- 柴田 雅博（NUMO 理事）
- 佐藤 努氏（北海道大学研究院 教授）※進行役

### 【議論の主なポイント】

- 「地下の構造で不確実性が高い場所は最初から避けるべき」
- 「処分場としての見通しを得るための地質踏査(歩く調査)は有効」
- 「地層処分場は地域に応じてテーラーメイド(仕立服)で作っていくべき」

### 【参加者からの主なご意見】

- 「ここまで進んで、後戻りすることはできるのか」
- 「地層処分後1,000年間の安全性が心配」
- 「科学的特性マップの区分が分かりにくい」



ステファン・マイヤー氏



徳永 朋祥氏



千木良 雅弘氏



柴田 雅博



佐藤 努氏

シンポジウムの  
配信映像は  
こちら▶



## 玄海町 第3回「対話を行う場」の状況（10月23日）

玄海町では、町民で構成された「実行委員会」の主催により、**第3回「対話を行う場」が開催**されました。「対話を行う場」は、町民の皆さまに文献調査の進捗状況および地層処分事業の概要について広く知っていただくこと、意見交換していただくことを目的としております。

### ●玄海町 第3回「対話を行う場」

**NUMOから文献調査の進捗状況および地層処分事業の概要についてご説明しました。**

当日は20名の町民の皆さまがご参加され、「地層処分事業や文献調査について」をテーマに4つのテーブルに分かれて、多くのご意見・ご感想やご質問をいただき、自由闊達な議論が交わされました。



対話を行う場の  
状況の配信映像は  
こちら ▶



### 【主なご意見やご質問】

「海外に処分をお願いできないのか」

「地層処分事業は調査開始から埋め戻しまで最短で何年くらいかかるのか」

「科学的特性マップを元にもっと国が積極的に選定すべきでは」



## 文献調査の進捗状況

現在

### ① 文献・データの収集



### ② 読み解き



### ③ 評価



### ④ 報告書作成



② 文献から抽出した情報を地図上に整理して、調査内容を文章でまとめます。

③ 収集した文献・データを用いて、火山や活断層などによる地層の著しい変動がない、などの文献調査で評価する要件に従って、評価を実施します。

**現時点では約5,000件の文献を収集していますが、調査に必要となる情報が記載されていた文献は、地震・活断層・噴火などの各項目において重複を含めて約2,000件でした。最終的に報告書に引用される文献は、重複を含めても数100件程度となる見込みです。**

**※現在、文献・データの収集は概ね終了し、情報の読み解きと評価を進めており、その後、報告書の作成となります。**

## 玄海町内で「ジオ・ラボ号」出展（11月16日）

NUMOは、**玄海町で開催された「産業文化祭」でジオ・ラボ号を出展しました。**

参加者の皆さまには、「ジオ・ラボ号」の横でクイズラリーとバスボム作りを体験するなど、地層処分について見て触って楽しく学んでいただきました。延べ400名の方がご参加され、多くの方に地層処分について関心を持っていただき、ご好評をいただきました。



**NUMOでは、全国のできるだけ多くの地域で、地層処分事業に関心を持っていただき、文献調査を受け入れていただけるよう、引き続き取り組んでまいります！**

